

# 道教組女性部通信

第四号

二〇一七年 三月発行

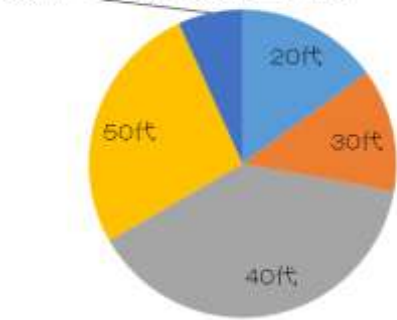
道教組女性部(文責:山本佳奈子)



「二〇一七、道教組女性部アンケート」ありがとうございました!

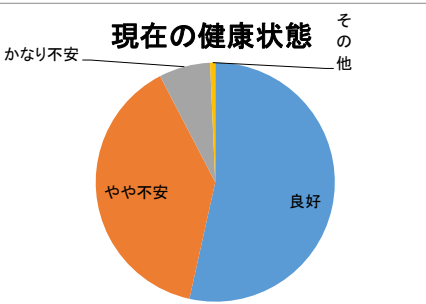
各単組女性部の取り組みを、「全道の声に!」と検討を進めて、八年目になりました。常任委員会で基本形を作成し、単組ごとに取り組み方を工夫して、集約を進める形にしています。今年度は、のべ人数で「二百九十四名」のみなさんにご協力頂きました。(中間総括です。集約進行中)

解答者世代別



「良好で当然...」のはずか?

ハラスメントの実態



「やや不安」「かなり不安」が、半数近くを占めています。しっかりと眠って、元気な朝を迎えているか、調子が悪い時、無理せず休暇がとれているのか、心配です。隣のクラスの先生が明日にも倒れるかも。今、助けが必要な人が身近にいるかもしれません。あなたの一言が、心のサブリになるかもしれません。

今回のアンケートにいくつかの声が寄せられています。各単組が相談窓口になり、丁寧に扱ってほしいと思います。一人で悩まずに、道教組にも声を届けてください。

◆強い叱責はなくても、話し合いでわかるはずなのだが、たびたびそのような事が見られ、精神的にかなりの負担になり、体調を崩している。

- ◆人格否定された。
- ◆管理職が人によって対応が違う。無視される。
- ◆自分ではないが職場で高圧的な態度で困っている人がいた。
- ◆指導が感情にまかせて突き放すようなことが多くある。的確な指導がなされていない。

## 編集後記「新年度総会は5月12日で調整中! 詳細後日...」

今年度、道教組の女性部長を引き受ける中で、全道・全国の先生方と会うことができました。感じたのは、私たちが求める環境で働いている教師はどこにもいないという、厳しい現実です。

しかし、「～がない」「～もない」ところから、生み出し、磨き上げるのが女の先生の得意技です。経験という武器をもつ先輩も、何度でも立ちあがる若さという万能薬をもつ若者もいます。導いてくれる賢者はいないけれど、切り抜ける知恵を出し合って、あがくことはできます。

日々を必死に、笑顔で乗り切っている女性組合員のみなさん、本当に、お疲れ様です。一人ひとりの心地よい居場所を営むために、誰かのために、未来の何かのために、引き続きあゆみを進めましょう。

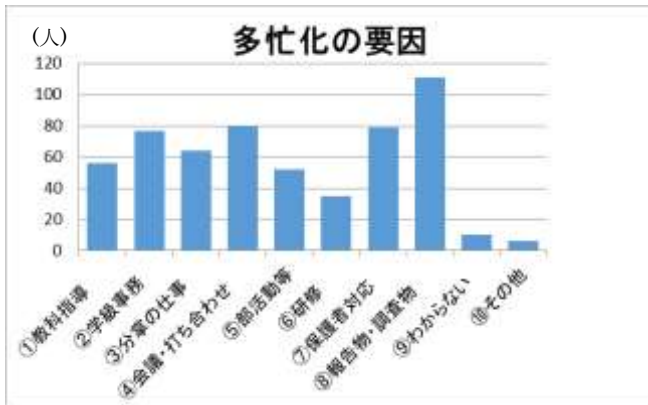
2018年も、みなさんに『伝える場』『つながる場』を提供できるよう、単組間の連携を進めていきたいと思ひます。今後ともご協力お願いいたします。

道教組女性部部長 山本佳奈子@宗谷



宗谷教組女性部: 稚内支部

## 先生方が感じる多忙化「そう思う」を数値化(複数回答有)



この項目は、地域に関係なく同様の傾向があります。地域の差ではなく、教職員ならではの大きさが表れています。最大の解決策の一つは定数増と思われませんが、具体的な対策がなされる前に、身の回りの小さな工夫の積み重ねが大切です。是非、交流していきたいものです。

勤務の割り振りについても、地域・学校によって取り扱われている状況です。職場全体の理解を進める必要がありますね。

## 権利行使状況「自分は後回し」「家族優先？」

単組ごとに、学習や啓もうが進み、権利を「知らない」という状況は少なくなっています。しかし、「生休をとりにくい」「伝えにくい」などの状況は、無くなりません。引き続き、声をかけ合うことが必要です。

妊娠・出産・子育てにかかわる権利は、必要な時に行使されている様子があります。ただ、子どものことで休むことが多いので自分の体調が悪くても、無理をしているお母さん先生がいるようです。心配を助長するのが「産休・育休の代替を引き受けてくれる、期限付き採用の先生不足」との情報です。道教委のトピックスも臨採募集が列をなしています。安心して、休みに入れないのは本当に心苦しいものです。

### 職場づくり

- ・中学校なので、部活動の土日勤務が身体にこたえています。正直、苦痛になっています。
- ・学校全体の仕事が減らないと、年休をとりたいくてもとれないです・・・。
- ・割振なしはありがたいですが、休みづらい。長期休業中にまとめてとれるような制度にしてほしい。

### 自分のこと

- ・生理休暇、更年期休暇をみんなでとる雰囲気作りを進めたい・・・。
- ・更年期のせい、高血圧のせい、ストレスフルな職場のせい・・・疲れがたまります。更年期休暇あればいいな
- ・家族で過ごせるための異動を推進してほしい。
- ・不妊治療中です。職場の理解はあります。でも、島からの通院はしんどいです。

### 子育て・家族のこと

- ・朝早くからの勤務、夜おそくまでの勤務で家事ができない。食事の準備もできない日も多く、コンビニなどの利用も多く、わが子の食生活が不安。
- ・中学生も看護休暇3回でもあると助かります（小学生のようにとれるといいなあ～）。
- ・学童が6年生までといっても、4年以上になると定員オーバーで入れない。学童のスペースも先生の数も定数も、全てが足りない。
- ・保育所はあるが、へき地保育所のため、二次保育が必要。
- ・不登校の娘によりそうために休みをとったかったが、職場の雰囲氣的にも職務内容的にも職務内容的にも取ることができなかった。一番大切な我が子が二の次になっていると思うとつらかった。